

龍谷哲学論集

第30号

2016

戦後短歌のアポリア

— 3・11以後の短歌の状況について …………… 大辻隆弘

「節度ある感情（メトリオパテイア）」をめぐる考察（1）

— 問いの発端と概念の由来 …………… 田中龍山

なぜカントは、図式としての空間論を取り除いたのか？

— 『純粹理性批判』における認識の十分条件としての
超越論的時間規定 …………… 信田尚久

中世末期の自然哲学にみる時間表示の起源

— ニコル・オレームの運動学とスカラー表示としての t の発生
…………… 藤本忠

*

《最終講義》

宗教としての仏教

— 私が宗教学で学んだこと …………… 高田信良

龍谷哲学会

龍谷哲学学会規約

- 一、本会は龍谷哲学会と称する。
- 二、本会は哲学の研究と教育の発展を図ることを目的とする。
- 三、本会は右の目的達成のために次の事業を行う。
 - (一)講演会ならびに研究会を開く。
 - (二)会誌『龍谷哲学論集』を発行する。
 - (三)その他、会員の親睦交流のための行事を行う。
- 四、本会は龍谷大学文学部哲学科哲学専攻の学部学生、大学院生、研究生、兼任講師、および科目担当の専任教員を正会員とする。それ以外の者が入会する場合は、委員会の審査承認を経て一般会員として処遇する。
- 五、本会の事業を遂行するために委員若干名をおく。委員は龍谷大学文学部哲学専攻の専任教員および委員会の推薦した者に委嘱する。
- 六、会費は年会費を前納しなければならない。年会費は教員五千円、大学院博士課程生四千円、同修士課程生三千円、学部学生千円、研究生・兼任講師・一般会員二千円とする。
- 七、正会員、一般会員ともに会誌の配布を受け、本会主催の各種行事に出席し、発言する権利を有する。
- 八、本会は事務所を哲学合同研究室内におく。
- 九、本規約の改正は委員会の決議による。
- 十、以下の条項は、一般会員、兼任講師などにも適用する。三

年連続で会費未納の場合は、督促状を発行し、さらにその後、半年経過するも、未納の場合は除籍とする。

本規約は二〇一〇年四月一日をもって施行する。

龍谷哲学会委員

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 丸 | 藤 | 田 | 谷 | 田 | 竹 | 高 | 魚 | 伊 |
| 山 | 本 | 村 | 本 | 中 | 内 | 田 | 住 | 藤 |
| 徳 | | 公 | 光 | 龍 | 綱 | 信 | 洋 | 邦 |
| 次 | 忠 | 江 | 男 | 山 | 史 | 良 | 一 | 武 |

「龍谷哲学論集」投稿規定

- 一 本誌は、西洋哲学、倫理学、宗教哲学に関する研究論文を発表する。
- 一 投稿資格は、本学大学院博士課程哲学専攻在籍者、同修了者、本学哲学専攻専任教員、または委員会の推薦した者。
- 一 龍谷哲学学会委員会の審査により掲載論文を決定する。
- 一 枚数は四〇〇字詰原稿用紙五十枚相当を標準とする。
- 一 各年度の九月末日までに完成原稿として委員会に提出すること。
- 一 掲載論文等の著作権は執筆者に帰属するが、本学及び国立情報学研究所等が論文等を電子化により公開するものについては、複製権及び公衆送信権の行使を龍谷哲学学会に委託するものとする。ただし、電子化による公開は執筆者の許諾を得たうえで行うものとする。

執筆者紹介

大辻隆弘 歌人・一九八五年本学修士課程修了
田中龍山 本学文学部准教授
信田尚久 本学非常勤講師・
神戸大学人文学研究科研究員
藤本 忠 本学文学部准教授
高田信良 本学文学部教授

会 告

- 一、会費は 郵便振替口座 〇一〇二〇一三一八五七一 番 龍谷哲学会宛にお振込下さい。
- 一、「龍谷哲学論集」の編集に関する通信・寄贈図書・寄贈雑誌等は本会宛にお送り下さい。
- 一、「龍谷哲学」の編集に関する通信は本会気付「龍谷哲学」編集委員会宛にお送り下さい。

龍 谷 哲 学 会

京都市下京区七条大宮
哲学合同研究室 字六〇八六八
電話 京都 〇七五三四三三三二一
内線 五三〇一

編集後記

わたしたちが生きていくなか、多くの別れがあります。本年度、小林道夫先生が六月二日に他界されました。これからたくさんの方を学ばせていただける、そう思い込んでいたわたしたちは途方に暮れるばかりでした。いまはただ、先生のご冥福をお祈りするばかりです。

また、新たな道へと歩まれる別れもあります。哲学教室から本年度をもって高田信良先生と谷本光男先生がご退職されます。これまでの学恩に感謝申し上げますとともに、これから余暇をおそらく知を愛し求めることに費やされるであろう両先生方の、御多幸を心より祈念いたします。

龍谷哲学論集 第三〇号

二〇一六年一月三一日印刷
二〇一六年一月三一日発行

編集者 龍谷哲学学会委員会

編集代表 田中龍山

発行者 龍谷哲学学会

代表 丸山徳次

印刷

社会福祉法人 京都梅花園

城陽市市辺石原一ノ二
電話 〇七四五二二二二二

THE RYUKOKU TETSUGAKU RONSHU

THE PHILOSOPHICAL REVIEW
OF
RYUKOKU UNIVERSITY

No.29

2016

Dilemmas of contemporary tanka poems

— How tanka poems have faced the days after the 3.11
catastrophe ? Takahiro Otsuji

Some Notes on the Concept of moderate Affection in ancient
Greek Philosophy (1) Ryuzan Tanaka

Warum löschte Kant die Diskussion über den Raum in dem
Schematismus? Naohisa Shinoda

The Origin of Time representation in the Natural Philosophy of
the late Middle Ages

— the Kinematics of Nicole Oresme and the Scalar representation as “t”
..... Tadashi Fujimoto

*

Buddismus als Religion

— Meine Letzte Vorlesung der Religionswissenschaft
..... Shinryo Takada

Published by
THE RYUKOKU TETSUGAKU-KAI
(The Ryukoku Philosophical Society)
Ryukoku University
Kyoto Japan